

2019年8月22日
公益社団法人 日本証券アナリスト協会

シニア・プライベートバンカー筆記試験（2019年春試験）の結果について

公益社団法人 日本証券アナリスト協会では、シニア・プライベートバンカー（シニア PB<上級レベル>）筆記試験（2019年春試験）に関し、PB資格試験委員会（委員長：新井 富雄 東京大学 名誉教授）の審議を経て、次のとおり合格者を決定した。

筆記試験の受験者（答案提出者）49人のうち、合格者は17人、合格率は34.7%であった。合格者17名は、全員所定の実務経験を積んでおり、シニアPB資格が付与される。

なお、試験開始（2013年）以来の累計は以下のとおり。

【参考】シニア PB 合格者・累計（124名）の内訳

－ 2013年8月から2019年8月末までの累計－

	受験者数（名）	合格者数（名）	合格率（%）
合計	542	124	22.9

【参考】シニア PB 筆記試験合格者数上位5社

- | | |
|-----------------|-----|
| 1. 野村証券(株) | 15名 |
| 1. (株)三菱 UFJ 銀行 | 15名 |
| 3. (株)三井住友銀行 | 10名 |
| 4. みずほ証券(株) | 9名 |
| 5. (株)池田泉州銀行 | 7名 |

2019年春試験の答案の特徴等については、添付の「シニア PB 筆記試験（2019年春試験）総括コメント」をご参照下さい。

【本件に関する照会先】
公益社団法人 日本証券アナリスト協会
PB 教育担当
TEL：03-3666-1438
E-mail：pb@saa.or.jp

以上

シニア PB 筆記試験（2019年春試験）総括コメント

今回の出題意図と、採点委員が指摘したコメントからみた答案の特徴、課題は次のとおり。

1. 出題意図

今回の試験では、飲食店の経営者（71歳）から事業承継や相続（資産承継）に加えて資産運用についての相談があったという設定で出題した。

今回のケースは、引退を決意したオーナー経営者から、後継者へどのように事業を承継していくか、また現預金中心となっている個人資産をどのようにしていくかについて相談を受けたという事例であるが、多額の現預金をどのように運用するかが一つのポイントとなっている。

また、兄妹間の折合いや其々の事業採算性の問題、資産形成の背景と異母兄弟間の資産分配の問題、投資初心者への金融リテラシー教育と二次相続対策の問題など、相談者の置かれた状況は、一般的ではあるが難しい設定であることがわかる。

事業（自社株）の承継については、会社分割とするのか、それともまずは相互協力を目指させるのか、仮に会社分割をするならカフェ部門の継続性をどのように図っていくのか、また個人資産については、そもそも未払い相続税額を大幅に上回る現預金を伝統的資産に分散して増やす必要があるのかないのか、分散投資の観点から伝統的資産だけでよいのかどうか、それらを投資初心者にどのように伝えていくのか等について、事業の継続性やファミリー全体最適実現の視点からの踏み込んだ検討が必要になる。

一見オーソドックスなテーマの中で、顧客の心の琴線に触れる提案を作るにはどうすればよいか。プライベートバンカーとして、いかに顧客の身になり、顧客に寄り添った提案が出来るかが鍵になる。

2. 今回の答案の特徴、課題

(1) 改善が目立っている点

改善が目立っている点としては、次の点が挙げられる。

- ① 論点がわかりやすく整理された答案が増えている。

冒頭のサマリーや現状分析などがわかりやすく整理された提案が増えている。投資政策書の評価する上での一つの重要なポイントは、言うまでもなく読み手(すなわち顧客)にとっての「わかりやすさ」である。

② 対策案を比較検討している答案が増加している。

複数の対策案を比較検討した上で推奨している提案が増えている。比較検討することは、顧客とのコミュニケーションを深め、説得力を高める上でも有効な手法である。

(2) 改善が必要な点

今回、現預金中心となっている個人資産をどのようにするか保険も含めて検討したいとの意向があるにもかかわらず、この点に対する提案内容が表面的で内容が乏しかったり、使途別色分けもせずに投資初心者に提案したり、中には顧客の意向を無視して全く触れられていない投資政策書もあった。

投資政策書は、顧客の視点で全体最適をどのように構築していくかをまとめたものであり、相手が求めていること等の必要事項が網羅されているか確りと確認すべきであろう。試験問題に添付された「投資政策書作成にあたってのチェックポイント」がこのあたりの確認作業に有効なので活用して欲しい。

なお資産運用に関しては、新テキスト「資産運用・管理の基礎知識」を刊行しているのでこちらも参考にして欲しい。

(3) その他

① ファミリー全体最適の視点

オーナー経営者にとって事業承継を中心とする相続対策は優先度の高い重要な課題であることは言うまでもないが、それに関する提案が、実務的な検証がなされていないため、実現可能性について判断が難しい答案が少なくない。数字に基づく分析や、複数の対策案のメリット/デメリットを比較してのきめ細かな分析などが示されると、より実現可能性が高く説得力のある提案となる。

また自社株移転対策に偏重し過ぎるあまり、ファミリーの全体最適を実現する観点からの資産の保全、相続と承継、運用などの視点が疎かになっているものも見受けられる。

② プライベートバンカーの心得

サマリーも含め全体的に複数の対策案を提示するだけにとどまり、顧客にとっては物足りなさを感じる構成の答案が散見される。

投資政策書は、顧客への意思決定を促す書面である。各案の単なる比較に終わることなく、判断基準を確りと示したうえで最善の提案と判断したものを自信をもって推奨するのがプライベートバンカーの役割であろう。

③ 顧客サイドに立った提案書の視点

投資政策書の読み手は基本的にはオーナー経営者になる可能性が高いものの、その他のファミリーメンバーが目を通したり、あるいはセカンドオピニオン目的で他の専門家の目に触れることも十分に考えられる。

したがって、個人の属性や性質、家族関係に触れる表現についてはこの点を十分に踏まえたうえで記載する必要があり、一方で正確な記述や正確な計算がされていないと顧客の信頼を失うことにもなりかねないであろう。

投資政策書は、いかに前向きに読まれ、ファミリーメンバーの納得性を導き出すかが求められる、最初の重要なアプローチ提案であることに十分配慮し、答案を書き上げた後、読み手や関係者のことを思い浮かべながら読み返すなどの取り組みをお願いしたい。社内レポートのような表現や、断定的な表現になっていないかはもとより、誤字・脱字・記載相違・前回試験の登場人物名が残っている等の答案は論外と言わざるを得ない。

④ 評価の高い投資政策書とは

シニア PB 筆記試験も回数を重ね、多くの答案が一定水準を超える内容となってきたのは嬉しい限りであるが、今一步で合格ラインに達しない答案も多い。何が合格答案と不合格答案の差になっているかを概観すると、以下のポイントが浮かんでくる。今後の受験者は参考にして欲しい。

- イ. 提案内容のバランスの良さ
 - (a) 利害関係者への配慮
 - (b) 実現性
- ロ. 選択に至った論理的思考
- ハ. 明瞭簡潔な記述

協会としては、投資政策書のレベルアップのため、引続きセミナー、スクールの内容充実に注力していきます。

尚、本件についての照会・質問等には一切お答え出来ませんので、ご了承ください。

以 上